



2008年1月28日

各 位

会 社 名 日本電気硝子株式会社
 代表者名 社 長 井筒 雄三
 コード番号 5214 東証・大証第一部
 問合せ先 取締役常務執行役員 阿閉 正美
 TEL 077(537)1700

業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)業績予想の修正

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年4月26日に公表した平成20年3月期の通期業績予想を次のとおり修正します。

(1) 連 結

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	360,000	80,000	75,000	43,000
今回修正予想(B)	365,000	97,000	94,000	50,000
増減額 (B - A)	+5,000	+17,000	+19,000	+7,000
増減率 (%)	+1.4	+21.3	+25.3	+16.3
前期実績	336,410	84,585	81,425	40,358

(2) 単 独

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	300,000	70,000	70,000	41,000
今回修正予想(B)	300,000	89,000	89,000	51,000
増減額 (B - A)	±0	+19,000	+19,000	+10,000
増減率 (%)	-	+27.1	+27.1	+24.4
前期実績	267,398	74,979	76,270	41,950

<理 由>

第1～第3四半期(平成19年4月1日～12月31日)については、主力のFPD用ガラスが市場拡大を背景に販売を伸ばしたことに加え、生産性の改善が順調に進んだことなどが寄与し、製品価格の下落をはじめ新設備の立上げ費用や減価償却費、開発費の増加、原燃料価格の高騰などの利益圧迫要因を吸収し、本日発表の業績となりました。

第4四半期(平成20年1月1日～3月31日)についても、FPD用ガラスは引き続き堅調な販売環境が予想される中、新設備の戦力化やさらなる生産性改善を、またCRT用ガラスにおいても採算性改善を見込んでいます。PDP用ガラスについても設備集約による費用減少を見込んでいます。加えて新設備の立上げ費用や開発費が減少します。

現在、世界的に不透明な経済状況にありますが、以上により連結、単独ともに上記の業績を見込んでいます。

以 上